

MDP

SaganTosu

MATCHDAY PROGRAM

12.8

(日)


14:00 KICK OFF
 vs ジュビロ磐田

© 2015 JUBILO

MF 14

藤田 直之
 Naoyuki FUJITA

追

「最高でしょ」。プロサッカー選手としての歩みを止める決断をしてなお、藤田直之の心は晴れやかだった。引退の心境を問われた藤田の表情には未練も後悔もなかった。「自分が思い描いたとおりに終われるような感覚で、一番の理想形。サガン鳥栖を離れるときに、離れる立場のくせにわがままなんですけど最後、ここで引退したいと思っていた。そういう思いを持ちつつ神戸に移籍したので、そのとおりになって幸せ」。自らが一步目を踏み出した場所で選手人生のゴールを迎える。多くの選手たちが抱きながらもその夢を叶えられるのはごくわずか。引退発表後、練習場に訪れるサポーターから伝えられる「ありがとう」の多さは藤田が鳥栖で築き上げてきたものの大きさを物語る。ただ、藤田もまたサポーターに対して「ありがとう」の思いを抱いており、感謝の思いを伝え合うことができる時間もまた藤田にとってかけがえのないものとなっている。

「最後の試合だからといって情けない姿は見せられないし、自分にこれまで関わってくれた人たちもたくさん見に来てくれる。しっかりプレーしたい」。プロサッカー選手としての最後の試合に向けて藤田はそう言葉に力を込めた。2022年シーズン、鳥栖へ復帰した際に発した「鳥栖が大好きで僕を育ててくれたという感謝の思いは変わらなかった。いつか帰って恩返ししたいという気持ちが大きかった」という言葉。あれから3年、どれくらいものを返せたのかは分からない。ただ、返し切れたとは思っていない。「指導者の道に進んでいつか鳥栖に貢献したい」。選手としての終わりを迎えても藤田には新たな夢が芽生えている。鳥栖での物語はこれで終わりではなくあくまでも区切りでしかなく、藤田直之とサガン鳥栖の物語はこれからも続いていく。万雷の拍手と声援は『14』が記された背中に降り注ぐだろう。感謝の思い、そして鳥栖の誇りを胸に選手として、最高のキャプテンとして藤田が最後の駅前不動産スタジアムのピッチに立つ。

© J.LEAGUE

最高のキャプテン“が迎える幸せな結末。
 感謝の思いを胸に
 プレールで示す
 ありがとう”


 佐賀県 presents

SAGANゼロカーボンチャレンジマッチ